

僧帽弁閉鎖不全症について

心臓血管外科 福井 伸哉

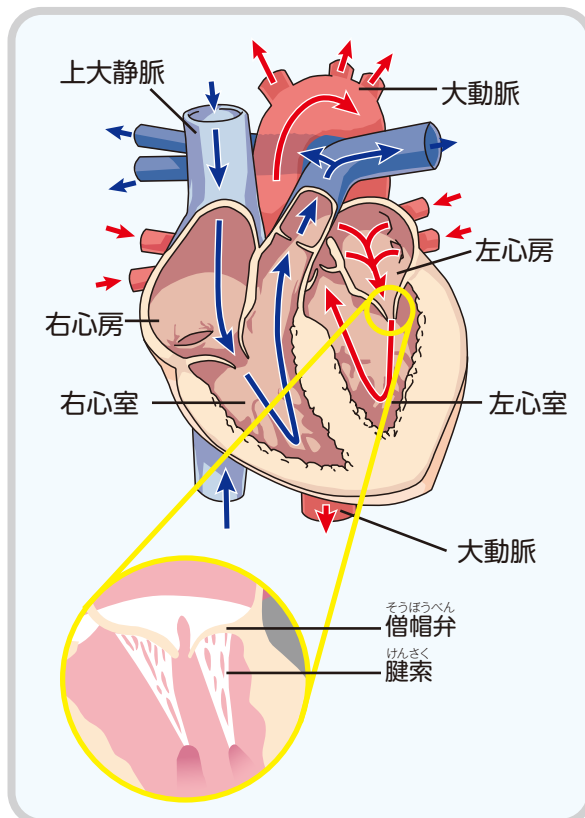
そうぼうべん へい さ ふ ぜんしやう

僧帽弁閉鎖不全症とは？

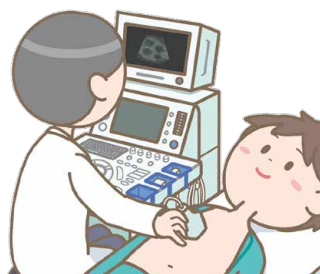
心臓は全身のすみずみまで血液を送り、それにより脳をはじめとした全ての臓器の機能が保たれています。肺で酸素を取り入れた血液は、左心房から僧帽弁を通して、左心室に入ります。左心室は、収縮時に、大動脈弁を介して、全ての血管の中核である大動脈に向かって血液を駆出します。

ところが、僧帽弁が十分閉鎖しないと、左心室が収縮する時、大動脈だけでなく左心房にも血液を駆出してしまいます。左心房は、そもそも肺で酸素化された血液が心臓に返ってくる部屋であり、そこに左心室から駆出された血液が逆流してくるため、肺に血液が停滞します。その結果、軽労作で息切れ(階段を上るとすぐに息が切れるなど)などの症状が出現する病気が僧帽弁閉鎖不全症です。

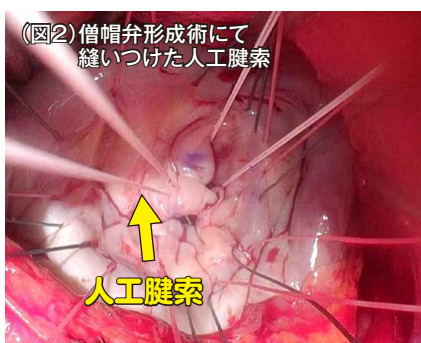
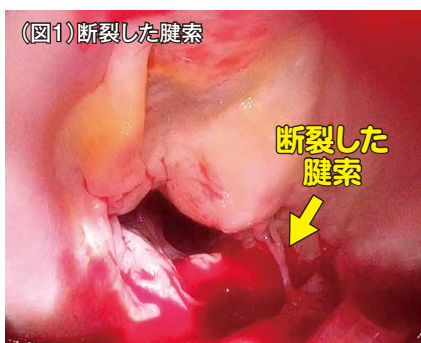
原因は様々ですが、僧帽弁を支える腱索が断裂することにより起こることが多く見られます。診断は、聴診で異常を発見し、心臓超音波検査で確定診断に至ります。



僧帽弁形成術



僧帽弁を支える腱索が断裂(図1)あるいは伸びてしまったことにより、発症した僧帽弁閉鎖不全症には、僧帽弁形成術が積極的に行われています。断裂あるいは伸びた自己の腱索の代わりに、人工の腱索を縫いつけ、長さを合わせて、僧帽弁閉鎖不全症を治療します(図2)。また、将来の再発予防のため、人工の弁輪も同時に縫いつけます。



僧帽弁閉鎖不全症に対する手術には、僧帽弁形成術と僧帽弁置換術(人工弁で置き換える)があり、それぞれにメリット、デメリットがあります。

くわしくは心臓血管外科担当医にお気軽にお尋ねください。



関西ろうさい病院の理念

●● 良質な医療を働く人々に、地域の人々に、そして世界の人々のために ●●

病院運営の基本方針

- ・私たちは、働く人々の健康確保のための医療活動、即ち「勤労者医療」中核的役割を担ってこれを推進します。
- ・私たちは、高度急性期医療機関として良質で安全・高度な医療の提供を行うとともに、地域の諸機関と連携して地域医療の充実を図り「地域に生き、社会に応える病院」としての発展を目指します。
- ・私たちは、患者さんの権利を尊重し、医療の質の向上ならびに患者サービスの充実に励み、「信頼され、親しまれる病院」作りを心がけます。
- ・私たちは、「開かれた皆様の病院」として、ボランティアや有志の方々の病院運営への参加・協力を歓迎します。
- ・私たちは、病院使命の効果的な実現のために「働き甲斐のある職場」作りを行い、運営の効率化と経営の合理化を推進します。

イメージキャラクター
かんろっこ

さぶりめんと

2020-Dec.

No. 55

下肢静脈瘤の治療

形成外科 山内 菜都美

■ 下肢静脈瘤とは

静脈弁が正常に働かなくなり、脚の血管が膨らんで浮き出ているのが下肢静脈瘤か し じょうみやくりゅうです(図1)。

しばしば、足がむくむ、だるい、重い、などの症状が出ます。筋肉がつる『こむら返り』も起こりやすくなります。さらに症状が進行すると、湿疹や色素沈着、潰瘍ができ、見た目の上でも問題となります。

静脈瘤は女性に多く、年齢とともに頻度は増加します。妊娠や分娩を契機に出現しやすく、また美容師や調理師など立ち仕事に従事している人にも多い疾患です。

■ 下肢静脈瘤の治療

静脈瘤の治療方法には、弾性ストッキング、ストリッピング手術こう い けっ さつ しゅつ、高位結紮術、硬化療法があります。またレーザーやラジオ波による治療法もあり、当院では症状に合わせて、これらを組み合わせて治療を行っています。

血管を抜いたり、糸で縛ったり、焼いたりすると血液の流れが悪くなるのでは…と心配する方もおられますが、血液は静脈瘤の原因となっている表在静脈よりもっと奥深くの深部静脈を流れているため全く問題ありません。



(図1)手術前

■ いろいろな治療方法

» 弾性ストッキング

足に血液が滞留しないように静脈瘤を強く圧迫するためのものです。外来で採寸し、当院の場合は売店で購入していただきます。悪化の予防にはなりますが、根本的に治すものではありません。

» ストリッピング手術

瘤の原因となっている伏在静脈を引き抜く方法です。全身麻酔や腰椎麻酔で行うため2泊3日の入院が必要となり、傷痕は残りますが、どんな静脈瘤でも確実に治療できます。

» 高位結紮術こう い けっ さつ しゅつ

小さな皮膚切開から静脈を糸で縛り、血液の逆流を止める方法です。局所麻酔で15分程度、日帰りの手術が可能です。

» 硬化療法

静脈瘤に硬化剤を注入して静脈を潰す方法です。日帰り治療が可能で、術後しばらく注射した部位にしこりや色素沈着が残りますが、時間とともに硬化した静脈が吸収され消失します。

» レーザーやラジオ波

血管内から静脈を焼灼して閉塞させる方法です。小さな傷で侵襲が少ない治療が可能ですが、血管の状態によっては焼灼できない場合もありますので、主治医と相談してください。

日頃から静脈瘤を悪化させないために、長時間の立位を避け、弾性ストッキングの装着や就寝時に下肢を上げるなどの対策も大切です。足がだるい、むくむなどの症状でお悩みの方は、形成外科専門医までお気軽にご相談ください。

